



説教要旨「自分勝手なわたしたち」

マルコによる福音書 10章 32～45節

今日の箇所には、イエス様の弟子であるヤコブとヨハネが、イエス様が栄光を受ける時には自分たちの内、一人を右に、もう一人を左に座らせてほしいと願いでたことが記されています。ヤコブとヨハネがこの申し出をする前に、イエス様は三度目の受難予告を告げられました。もう三度目ですから、受難を告げられても取り乱す様なことはありません。むしろ「復活」という事柄のイメージができてきたのでしょう。イエス様が一度殺されて、三日の後に復活したときにこそ、あの山で目撃したようなイエス様の栄光に輝く姿が顕わされる。その姿を直接目撃していたヤコブとヨハネですので、イエス様が再びあの栄光に輝かれるとき、その両隣に座らせて自分たちを特別に扱って欲しいと願ったのです。

このヤコブとヨハネにイエス様は、「このわたしが飲む杯を飲み、このわたしが受ける洗礼を受けることができるか」と問われ、彼らは「できます」と答えました。ここで言う“杯”や“洗礼”というのは、イエス様が受けられる十字架の苦しみを意味します。しかしイエス様が捕らえられたとき、「弟子たちは皆、イエスを見捨てて」（マルコ 14:50）逃げ出してしまうのです。このときの彼らは、イエス様が飲む杯を飲めなかったし、イエス様が受けられる洗礼を受けることができなかったのです。

「偉くなりたい」「特別扱いされたい」。そんな思いは、このヤコブとヨハネだけではなく、他の弟子たちの心中にもくすぶっていました。他の弟子たちが腹を立てたのも、「出し抜かれた」との思いからのことです。“イエス様に従う”ということにおいてさえ、どっちが上だなどと言い合うマウントの取り合いが、二千年も絶えることなく続けられてきました。

自分勝手に、自分の栄光ばかりを求めているわたしたちに、イエス様は道を示して下さいました。「あなた方の中で、偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、一番上になりたい者は、すべてての人の僕となりなさい」（43-44 節）。そしてイエス様自らが、わたしたちに仕え、わたしたちの僕となって、十字架へと歩んでくださっているのです。

（2022・4・3 説教者：稲垣真実）